



令和4年度

まちづくりメイヤーズフォーラムの開催報告

テーマ

「ゼロカーボンなまちづくりを目指して」

●基調講演

「強みを活かした地域づくり ポストコロナ時代を見据えて」

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 理事長 小高 咲 氏

●特別講演

「ひとつのまちに拘らないデュアルライフの勧め」

株式会社クリエイティブオフィスキュー 鈴木 貴之 氏

●まちづくり事例紹介

「デジタル時代の移住のすすめ」

伊達市長 菊谷 秀吉 氏

「鹿追町が目指すゼロカーボンシティ」

鹿追町長 喜井 知己 氏

●「北の住まいるタウンの目指す姿」

北海道大学大学院工学研究院長・工学院院长・工学部長・教授

瀬戸口 剛 氏

●パネルディスカッション

○パネリスト 小高氏、鈴木氏、菊谷氏、喜井氏

○コーディネーター 瀬戸口氏



会場とオンラインの併用開催とし、会場のようなすをオンラインで配信しました

日時

令和4年
11月15日(火)
14:00~17:00

会場

札幌ビューホテル大通公園
地下2階ピアリッジホール
オンライン併用開催

参加者

389名
会場参加 197名
オンライン参加 192名



●基調講演：「強みを活かした地域づくり ポストコロナ時代を見据えて」

日本の経済は回復傾向にあります。コロナ以前には戻りかけていません。そのような状況の中であって脱炭素の取組は、経済や産業のあり方、消費者の行動や生活様式などにも大きく影響を及ぼしていくものです。北海道は再生エネルギーの活用において強みがあり、今後、自立分散型エネルギーの確立によるエネルギーの地産地消を進め、それにより経済の地域循環をつくるのが可能です。コロナを機としたデジタル技術の導入により、地域の地理的・物理的制約が縮小されたことで、地域の未来をどうデザインするかが問われていることをお聞きしました。



小高 咲 氏

●特別講演：「ひとつのまちに拘らないデュアルライフの勧め」

12年前に故郷の赤平市の原野を購入し、1年をかけて自分で開拓して家建てて、夢だった大型犬との暮らしを楽しむ2拠点生活をしています。田舎暮らしは省エネを意識する機会が多く、個人の取組がもっと進めば、北海道のゼロカーボンが進んでいきます。都会は便利でスピーディーな生活がある一方で、田舎は不便で忍耐が必要なこともあるがゆったりしています。2拠点生活を通じ、異なるものを理解することや、一つの考えに偏らないことの大切さ、また、様々な人と関わりができ、自然の中で人間性を回復しクリエイティブな仕事につなげていくことができているというご自身の体験を紹介いただきました。



鈴木 貴之 氏

●事例紹介：伊達市

「デジタル時代の移住のすすめ」



菊谷 秀吉 氏

高齢者のニーズに応える新たな生活産業を創出し、女性や若者にも働きがいのあるまちづくりを進めるウェルシーランド構想や、ICTを活用し民間企業と連携した農業による地域活性化について紹介いただきました。

●事例紹介：鹿追町

「鹿追町が目指す
ゼロカーボンシティ」



喜井 知己 氏

基幹産業である農業を生かした地域循環の取組として、バイオマスプラントを核とした余剰熱の活用や水素事業、自営線を活用した太陽光発電などのほか、脱炭素先行地域の取組について紹介いただきました。

●「北の住まいるタウン」の 目指す姿



瀬戸口 剛 氏

北海道がめざすゼロカーボンなまちづくりについて、再生可能エネルギーの地域内循環を進め、様々な産業に活用していくことで、住みづづけられる地域づくりを進める取組の方向性を討論していただきました。

●パネルディスカッション 「ゼロカーボンなまちづくりを目指して」

第10回の開催を記念し、これまでに参加いただいた市町村長の方々にも来場いただきました。過去の開催を振り返りながら、北海道に求められるゼロカーボンなまちづくりの可能性などが話されました。

～参加市町村長の方々～ [第2回] 夕張市長 厚谷司氏、[第3回] 足寄町長 渡辺俊一氏、[第4回] 沼田町長 代理 赤井圭二氏、[第4回] 室蘭市長 青山剛氏(オンライン)、[第5回] 当別町長 後藤正洋氏、[第6回] ニセコ町長 片山健也氏、[第7回] 恵庭市長 原田裕氏、[第9回] 東神楽町長 山本進氏



さまざまな意見が交わされたパネルディスカッションのようす

「北の住まいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをWEBでご紹介しています

発行：北海道（建設部 建設政策局 建設政策課）電話 011-204-5284（担当：内山）

編集：「北の住まいるタウンに係る普及啓発業務」受託事業者：株式会社石塚計画デザイン事務所

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.htm

2023年2月発行



facebookページもご覧ください
「北の住まいるタウン」